

“ CLSを始めとするマーケットインフラは、金融市場が円滑に機能する上で重要な役割を果たしています。新型コロナウイルスのまん延を受けて外為市場のボラティリティが急騰した際も、CLS決済の利用によって外為取引を安全かつ効率的にプロセスできたことで、我々は必要に応じて他のビジネス領域にも注力でき、成長を続けることができたのです。”

三井物産株式会社
財務部 企画業務室
坪井 充次長

1st

日本の事業法人としてCLS決済に初参加 (SMBC経由のサードパーティ)

92%

三井物産の外為取引全体の92%をCLS決済

CLS決済

三井物産は、2018年3月CLSの決済メンバーである三井住友銀行 (SMBC) を通じて、CLS決済にアクセスする日本初の事業法人として、サードパーティ参加

三井物産は64の国と地域に132のオフィスを構え(2021年4月1日現在)、多様な事業ポートフォリオを擁する日本の総合商社です。事業内容は、鉄鋼製品、金属資源、モビリティ、化学品、エネルギー、食料、流通事業、ウェルネス事業、コンシューマービジネス事業、ICT事業、コーポレートディベロップメントと多岐にわたり、それらを支えるロジスティクス、ファイナンス、さらには国際的なプロジェクト案件の構築・運営にも携わっています。

三井物産は、外貨業務の効率化と外為決済リスクの削減に向けた取り組みの一環としてCLS決済を導入する以前は、経験豊富なスタッフに頼って外為取引を決済する必要がありました。

課題

三井物産財務部は、資金・資本調達を通じた流動性の確保、資金・証券決済、そして各種金融取引(為替フォワード取引や金利・通貨のスワップ・オプション取引等)の約定を担っています。同社の外為取引には、売上げ、有償減資、配当金支払い、およびM&A案件に係る数億ドル相当の取引が含まれます。日本にある三井物産本社だけでも、年間為替予約締結額は約2兆円から3兆円(180億ドルから270億ドル)規模となります。

このように多様で複雑な業務運営のためには、業務プロセスは機動的、効率的で、適時性、安定性があることが求められます。さらには、特にボラティリティが極端に高い期間においても外為市場で十分な流動性を確保するために、三井物産は複数の通貨にわたって複数の口座を保有する20社以上の銀行や証券会社を相手に、活発に取引をおこなっています。三井物産は、各通貨の資金をメイン決済銀行である三井住友銀行 (SMBC) に集めるために、以前は各取引銀行のウェブバンキングサービス、電話、ファックス、電子メール通信などのさまざまな手段を用いて銀行間で資金を付け替えていました。複雑な事務や取決めを簡素化し合理化するために、三井物産はPRAやシングルサインオンを導入して自動化を推進することを狙いましたが、全体的な業務プロセスの効率化という観点では限られた効果を得るにとどまりました。

三井物産の事業領域が新興国や新産業に拡大するにつれ、これらにより多くのリソースを割り当てる必要が生じました。しかし、新興国通貨においては株式、通貨オプション、スワップ取引は標準化されておらず、熟練スタッフによるマニュアルオペレーションが必要でした。

一方、三井物産でも従業員のワークライフバランスの改善や総労働時間の削減などの社会的要請に対応すべく、業務を改革することが求められていました。こういったビジネス環境の変化は、業務プロセスを強化し、発想を転換する必要性を認識させたのです。

業務プロセスを見直す過程では、外為決済フローについても綿密に精査されました。三井物産は、CLSの決済メンバーである既存の取引相手銀行や証券会社を通じて、2008年の世界金融危機においても外為市場が安定的に機能する上でCLSが果たした重要な役割を、すでによく認識していました。その結果、三井物産はPayment-versus-Payment (PvP) による外為決済システムであるCLS決済を利用することで、ビジネス上の多くの課題に対処できるという結論に至りました。

“CLS決済される外為取引の比率が着実に上昇したことで、三井物産は業務プロセスを効率化すると同時に外為決済リスクを削減することが可能となりました。”

ソリューション

CLSは、世界最大の多通貨決済システムであるCLS決済を運営しており、世界で最も重要な70社以上の金融機関を決済メンバーとして擁しています。CLS決済は世界中どこからでも決済メンバーは直接に、サードパーティ参加者は間接的に利用できます。サードパーティ参加者には大手多国籍企業など銀行以外のユーザーが含まれ、顧客にCLS関連のサービスを提供するさまざまな決済メンバーを通じてCLS決済にアクセスすることができます。

三井物産は、決済メンバーのSMBCを通じてCLSを利用することにより外為取引を決済し、オペレーションの効率化やリスク管理の高度化を図りたいと考えていました。しかし三井物産は、SMBCが同社の支払指図をCLSに持ち込むためにSMBCに送信するのに必要なSWIFTネットワークへのアクセスがありませんでした。この問題を解決するために、三井物産はコンファメーション・マッチングシステム (CMS) の機能を活用して、決済指図SWIFT電文をCMSからSMBCへ送信することにしました。これによりSWIFT接続機能を自社で構築する必要がなくなり、追加費用の発生を抑えることが可能となりました。

2018年3月、三井物産はSMBC経由5社のカウンターパーティ銀行および証券会社と外為取引をCLS決済するアジア初の事業法人となりました。当初、三井物産の外為取引全体のごく一部しかCLS決済されていませんでしたが、その後着実に増加し業務プロセスが徐々に合理化されました。決済指図をSMBCに集中することでオペレーションの効率化を実現すると同時に、時差のリスクにさらされた支払いに起因する外為決済リスクの削減が可能になったのです。

これらのメリットを最大化するために、三井物産は外為取引の取引相手銀行がCLS決済を採用することを望んでいます。同社は現在17の銀行および証券会社を相手に5通貨でCLS決済を行っていますが、その比率は三井物産の外為取引全体の約92%を占めています(2021年3月31日現在)。同社は今後さらに対象通貨を追加する予定であり、これにより先行5通貨と決済プロセスの足並みがそろうこととなります。

CLSのミッションは、システミックリスクを最小化する一方で、顧客やより広範な外為市場に資金効率改善や事務効率化をもたらすことです。外為市場が円滑に機能する上でCLSが果たす重要な役割は、多くの企業がニューノーマルに対応してリモートワークを進めている現下の新型コロナウイルス禍に於いてほど明確に示されたことはありませんでした。SMBCを介したCLS決済の一元的資金繰り管理は、コロナ禍での三井物産の財務オペレーションで真価を発揮しました。

三井物産がCLS決済を通じて PvPを早期に採用したことは、 アジア太平洋市場における先 駆者としてのポジションを示し たものと言えます。

ベストプラクティスの採用

三井物産は、CLS決済の採用によって実現した取引枠の最適化、決済リスク削減、三井物産と取引相手双方の効率化と安定性向上を通じて、外為取引相手との関係を強化しています。

CLS決済が三井物産とその取引相手にもたらした直接的なメリットに加え、CLS決済を採用したことは、三井物産の投資家やステークホルダーに対しても非常に前向きなメッセージとなりました。PvPは、グローバル外為行動規範の原則によって奨励されているベストプラクティスであり、三井物産がCLS決済を通じてPvPを早期に採用したことは、アジア太平洋市場における先駆者としてのポジションを示したものと言えます。

三井物産の今

三井物産は新しい技術や革新を取り入れる企業と見なされており、さまざまなイニシアチブの実証実験にも参加要請を受けています。CLS決済の導入は、事務効率化から市場でのリーダーシップ、従業員のより良いワークライフバランスの実現に至るまで、三井物産にとって前向きな旅の始まりであることを示しています。

CLS決済のメリット

事務効率を飛躍的に向上

CLS決済対象通貨でのすべての外為取引について、カウンターパーティ銀行との間で交わすコンファメーション、マッチング、資金授受を一元化および自動化することで、事務効率を大幅に向上させます。

資金繰りを改善

マルチラテラル・ネットティングを通じて決済資金所要額および決済件数を最小化し(通貨ごと決済日ごとに最大1件に)、資金繰り効率を向上させます。

事務プロセスを合理化

財務部は、CLS決済対象通貨の外為取引で、取引相手銀行ごとに個別の支払いを行う必要がなくなります

決済リスクを削減

決済リスクを削減することで、取引相手銀行との取引枠の利用を最適化します。

FX Global Code

Using CLS products and services plays an integral part in helping you comply with the FX Global Code. Find out more at cls-group.com

Trusted by thousands of counterparties within the global FX ecosystem, CLS makes FX safer, smoother and more cost effective. Trillions of dollars' worth of currency flows through our systems each day.

For more information please email enquiries@cls-group.com

London
Hong Kong
Tokyo

New York
New Jersey

info@cls-group.com
cls-group.com